



会員 新井 翼

## 今だからこそ大切にしたいこと

### 1 信頼される人間とは？

皆さんは、『To All Tha Dreamers』（SOUL'd OUT）という名曲をご存知だろうか。その歌詞に「Heart to Heart Soul to Soul」というフレーズがある。声に出すと実に口心地が良いラップなのだが、それだけでなく、意味も心地が良いので私はこの一節を気に入っている。

この部分を訳するなら「腹を割って話そうぜ、魂で語り合おうぜ」である。魂までさらけ出すかは別としても、「腹を割って話す」というのは、人間関係の基本であり理想ではないか、と私は思っている。

ところが、実際に弁護士として仕事をしてみると、こちらは腹を割って話すつもりでも、相手からは心を開いてもらえないと感じることも多い。では、どうすれば他人と信頼関係を築き、腹を割って話すことができるのだろうか。

### 2 二つの名言

このようなことを考えるとき、私の頭には法科大学院の恩師から授かった二つの言葉が浮ぶ。

一つは「他罰的になるな」、もう一つは「同輩に信頼される人間であれ」である。

#### 「他罰的になるな」

—— 不具合の原因はまず自分の行いを省みよ。

司法試験の受験時代にはあまりピンとこなかったが、弁護士となった今は、この言葉の重みを強く実感している。

たとえば、法律相談などにおいて、「相手に話を通じないのは、相手に理解力がないからだ」と責任転嫁し、自己を正当化することは容易である。

しかし、相手を非難するばかりではなく、「話を通じないのは、相手の知識や立場に配慮した話し方ができていない自分のせいかもしれない」というように、自分

を省みることで、円滑に会話が進むことも往々にしてある。

他罰的思考を避けることは、自己を律することのみならず、他人に対して、思いやりを持って接することであり、信頼関係の土台なのである。

#### 「同輩に信頼される人間であれ」

—— 互いに与え合う関係であれ。

司法試験の浪人中、浪人をすることに慣れ始めていた私を本気で叱ってくれた友人がいた。彼の言葉がなければ私は今、弁護士ではなかったかもしれない。

彼は何の見返りも求めず、それどころか私に嫌われることも覚悟した上で、私のために厳しく接してくれたのだと思う。損得関係なく、他人のために行動することができる彼を私は今でも尊敬し、信頼している。

私は、これまで人から与えられるばかりであったが、弁護士となった今こそ、彼のように、他人に何かを与えることができる人間になりたい。

要するに、他人を尊重し思いやる精神を忘れないことが他人からの信頼につながるのだと思う。弁護士としての未熟さ故に、依頼者や相手方との意思疎通に苦勞し、歯がゆさを感じることも多いが、常にこのことを意識して邁進していきたい。

### 3 最後に

今般のコロナ禍という未曾有の事態によって、人々の価値観の違いなどが先鋭化してきているように感じる。「自粛警察」なる言葉も流行したように、人々が疑心暗鬼になったり、軋轢が生じ易くなっているのではないだろうか。

社会が不安定な今だからこそ、調整役たる弁護士として想像力を働かせ、人々が互いに尊重し合いながら、腹を割って話せる関係を作ることに貢献したいと思う。